

JSEKM 第2回幹事会レポート

と き：2016年3月12日 16:00~18:00

ところ：昭和音楽大学北校舎3F会議室

出席者：出田敬三、下八川共祐、小倉隆一郎、田中功一、赤塚博美、阿方 俊

欠席者：金銅英二、柴田 薫、石川裕司、大串和久

協議題目

1. 会計・会費

- ・ 第11回全国大会会計について途中経過の説明をしました、最終的なものは次回幹事会で2015年4月~2016年3月期会計報告と合わせて報告します。遅れている理由は、現在、2015年4~9月会計について一部精査中のためです。
- ・ 学会費払込状況が例年より遅れています。未払い者に関しては、再度督促すると同時に、退会届けについての徹底を図っていきます。
- ・ 学会設立時の前受金（運転資金）は、2014~15年度で返済が終了しました。

2. 第12回全国大会

以下の日程と場所が了承され、昭和音楽大学へ使用申請を提出しました。

と き：2016年11月13日（日）

ところ：昭和音楽大学

3. 第12回大会（案）

- ・ あいさつ：会場校（昭和音大）
学会代表（出田敬三・平成音大学長）
- ・ 基調講演：電子キーボードの将来的可能性—日本音楽舞踊会議コンサート活動を通して—
北川暁子（ピアニスト、日本音楽舞踊会議理事長）ほか音舞会メンバー
- ・ 総 会：通常議題および選挙結果のほか、幹事会を含めた幹事制度のあり方について、
常任幹事制度や幹事会の回数なども検討議題とする
- ・ 研究部会：昨年度は電子オルガン、M.L. にタテ線譜メソッドが加わったが、従来あった
学校教育部会の再立ち上げを促す
- ・ パネルディスカッション、ラウンドテーブル：研究発表と明確な区別をつけて、より多くの参加
者の発言と情報交換ができるようにしていく。また司会者が後述の全体会でま
とめを発表する
- ・ 研究発表：他学会を参考に今年度は30分で行う * 昨年までは45分
- ・ ポスターセッション：できるだけ前日にセットし、開会前、ランチタイム、休憩時など多くの時間
帯に目にふれるようにする

- ・ ランチタイムミーティング:将来的にパネルディスカッションやラウンドテーブルに発展させるように積極的に考えていく
- ・ まとめ:今年度は、従来の研究コンサートの時間帯にパネルディスカッション、ラウンドテーブル、研究発表のまとめのセッションを持ち、電子キーボード全体の情報共有する

4. 学会誌関連

- ・ 現在、投稿規定の中で原稿は「Windows の Word による提出が望ましい」となっていますが、Mac の Word 原稿も受け付けます。
- ・ 本誌は ISSN (International Standard Serial Number:国際標準逐次刊行物)として国会図書館をはじめ論文が広く閲覧できるようになりました。吉田泰輔元代表幹事より、これを機会に英語要旨の見直しを行う必要があるのではないかとアドバイがあり、見直すことになりました。

5. ワークショップ

- ・ タテ線譜メソッド関係のワークショップが承認されました。
と き: 2016年5日(日) 13:00~15:00
ところ: 昭和音楽大学 (予定)
テーマ: タテ線譜メソッドの現状に関する情報交換
参加者: タテ線譜メソッドに関心のある者
参加費: 無料 しかし、学会事務局「タテ線譜メソッド」係まで事前申し込みが必要

6. 後援願いの承認

- ・ 「第5回電子オルガンサマーキャンプ in 東京 2016」
と き: 8月20日~25日
ところ: 昭和音楽大学、新宿村スタジオ、国立オリンピック記念青少年ホール
主 催: サマーミュージックキャンプ実行委員
委員長 出田敬三 アドバイザー 吉田泰輔、柳田孝義、事務局 阿方 俊
委員 森下絹代ほか、海外から中国、台湾などアペカ地区代表
後 援: 中国大使館文化部、参加大学
- ・ 2016年中国・日本・台湾「電子オルガン・声楽交流コンサート in 中国」
と き: 2016年6月、11月ほかを申請中
ところ: 星海音楽学院、ハルビン音楽芸術学院、吉林省芸術学院などに司馬麗子会員が交渉
主 催: 中国国際文化交流センター、広東省国際文化交流センターほか
内 容: 電子オルガン伴奏による歌曲、アリア、電子オルガンソロ、アンサンブル
参加者: 日本側参加者、司馬麗子、阿方 俊、五十嵐優(学会員)ほか

7. 次回幹事会ほか

- ・ 「第3回幹事会」⇒ 7月2日(土)
- ・ 事務局ボランティア ⇒ 交通費プラスα程度で事務局のヘルプを依頼できる内容と人材の検討

(文責: 阿方 俊)